



初等部だより 12月号

鎌倉女子大学初等部
令和7年11月28日
第8号

あとみよそわか

部長 大塚 俊明

11月も月末を迎え、朝の冷え込みに冬の訪れを感じるようになってきました。

こうした中、今月8日・9日には恒例の「みどり祭」が実施され、多くの保護者の皆様にご参会いただきました。改めてお礼申し上げます。各学年とも力作が並びましたが、みどり祭最後の年を迎えた6年生の作品には、さすがとうならされるものが多く見られました。特にプッシュ・ステント技法による作品には、「富士山」などで知られる片岡球子の作品を思わせる色鮮やかなものもあり感心させられました。

さて、暦の上では早くも年末。子どもたちにとっては、学習や生活を見つめ直す大切な「振り返り」の時期となります。

かなり前のことになりますが、飛騨高山へ向かう列車内で、座席に携帯電話を置き忘れるという大失態を犯したことがあります。下車後しばらくして紛失に気づき、JRや携帯電話会社などに慌ただしく連絡するはめとなり、せっかくの旅行を楽しむ余裕もなくなってしまいました。幸い、その携帯電話は私が降りた直後に車掌の方が回収してくださり、無事に手元に戻りました。

現代では、落とし物の多くがセキュリティー・インシデント（情報漏えいなど）につながる可能性を持っていることを考えると、大きな問題なく戻ってきたことは幸いでした。

作家・幸田文は、父・幸田露伴から「あとみよそわか」という言葉を教えられたそうです。「あとみよ」は「立つ時は後ろを見よ」という教えで、「そ

わか」はお経風の語を添えたものです。バスや電車を降りるとき、レストランで席を立つときに「あとみよそわか」と心の中で唱えて後方をひと目確かめるだけで、忘れ物はずいぶん減るはずです。私も、以来気をつけるようにしています。

この「あとみよそわか」は、子どもたちへの指導にも生かすことができます。

席を立つ前に自分の机の上を確かめる。勉強道具や体育着が乱雑に置かれていないかを見る。教室のドアを閉める際には、後ろに人がいないか確認する。これは基本的なマナーであるとともに、安全のためにも欠かせません。以前、教室で追いかけてっこをしていた子が、勢いよく飛び出した際に後ろ手で扉を強く閉める場面を目撃しました。幸い事故には至りませんでした。大変危険な行為です。

露伴は、掃除を終えた文に「これでよしと思っても、もう一度見直してみなさい」とよく諭したといいます。今なお通用する大切なたしなみです。子どもたちの活動や、私たちの仕事の節目における「呪文」として、常に心に留めておきたいと思います。

二学期最終日の12月23日には「あゆみ」を手渡します。一人ひとりの努力に応える言葉を添えて渡したいと思います。1年生から6年生まで、自分の頑張りを「あとみよそわか」と振り返る手がかりにしてほしいと思います。ご家庭でも、次のステップに向けて励ましの言葉を添えていただければ幸いです。